

分野

教育・人材育成

キーワード

コミュニケーション不安／プロソディ／音響分析

# 日本人のコミュニケーション不安とプロソディ指導の効果



人間形成教育センター  
教授

中村 弘子

NAKAMURA, Hiroko

SDGs 関連項目



## 研究内容

英語教育の現場ではスピーキング力、特に英語でやり取りする力の向上が求められている。英語の授業の多くはコミュニケーションの場となっているが、日本人が他のアジア人よりもコミュニケーション不安が高く、シャイネスのレベルが高いことはあまり知られていない。英語学習者のスピーキング力向上を阻害する情意要因の一つである「不安」を、音響分析という客観的な手法で分析し、その研究成果をプロソディ指導に生かすことを目的に実証研究を進めている。

これまでの研究結果から、「不安」の高い学生は、英語で発表する際に、話し方が単調で、リズムやイントネーション等のプロソディの面で習熟度が低いことが見受けられる。よって、レシテーションやドラマ形式のプレゼンテーションの機会を増やし、話す速度も含むプロソディ指導の効果を検証することに取り組んでいる。発話の明瞭性を高めるのは個々の発音よりも、むしろプロソディであるという先行研究も踏まえ、語アクセントや文アクセントに基づく英語のリズムを習得することが、発話の理解度を増し、不安を低減させ、スピーキング力向上に不可欠であることを示す。

## 想定パートナー

各自治体の教育委員会

## 応用分野

小、中、高の英語教員の研修

## 取組実績

【企業、行政等との連携実績】

兵庫県高校生英語スピーチコンテスト但馬地区予選審査委員長および講演

ひょうご学力向上サポート事業英語合同授業研究授業指導助言

高円宮杯英語弁論大会鳥取予選副審査委員長

## その他

【関連論文等】

- 1.Nakamura, H. & Begole, B. (2023). Effects of L1 and L2 communication apprehension on speaking skills of Japanese university students. *English Language Teaching*, 16 (5), 1-9.
- 2.中村弘子(2022).「性格的特性および情意要因が日本人大学生のスピーキング・スキルに及ぼす影響」『ことばの科学研究』第23号, 23-41.
- 3.Nakamura, H., Nomura, K. & Saeki, N. (2020). An acoustic study of communication apprehension during English oral presentations by Japanese university students. *English Language Teaching*, 13 (8), 178-184.
- 4.Nakamura, H., Nomura, K. & Yamamoto, T. (2017). FO analysis for the oral presentation in English by Japanese university students. *13th Asian Pacific Conference on Speech, Language and Hearing*, Narita, Japan
- 5.中村 弘子(2016).「母語でのコミュニケーション不安が英語学習に及ぼす影響について」,『ことばの科学研究』第16号, 85-94.
- 6.中村 弘子(2016).「東アジアの英語教育とコミュニケーション不安について」鳥取大学グローバル化社会における多文化共生のための協働力育成プログラム
- 7.Nakamura, H. Kuo, F., Wu, K., Lin, S., Lee, D., Ka, H., & Lin, E. (2013). Communication apprehension and L2 learning anxiety in Japanese, Korean and Taiwanese university students. *9th Asian Pacific Conference on Speech, Language and Hearing*. Taiwan